

試料・情報利用研究計画書(概要)

研究番号	2024-4001	利用形態	AMED (S24-001)			
研究題目	ゲノム解析に基づく肺がんの発生・進展の分子機構の解明(3)		研究期間	承認日～2025年3月31日		
主たる研究機関	東京大学大学院		責任者 氏名・職	鈴木 穰	教授	
分担研究機関	-		責任者 氏名・職	-	-	
研究目的と意義	<p>肺がんの克服のためには肺がんの発生・進展の分子機構や転移能等の特性を遺伝子レベルで明らかにし、その情報に基づいて新たな予防、診断、治療法の開発が求められている。これまでの研究で、肺がんにおいては、がん抑制遺伝子の不活化やがん遺伝子の活性化が生じていること、遺伝子異常が果たす生物学的意義について明らかにしてきたが、これらの遺伝子だけでは、肺がんの発生・進展の分子機構や特性を十分には説明できていない。したがって、更なる遺伝子解析を行うことで肺がんの発生・進展の分子機構や特性の全ぼうを明らかにし、新たな予防・診療法の開発に資する情報を得るため、ことが必要である。ヒト肺がん細胞における変異、欠失、増幅、過メチル化等、体細胞レベルで生じたゲノム異常と遺伝子発現変動を解析し、それらを臨床病理学的情報と対比検討することで肺がんの発生・進展の分子機構及び特性を遺伝子レベルで明らかにすることを目的とする。</p>					
研究計画概要	<p>組織から抽出されたDNA・RNAあるいは蛋白質を用いて、肺がん細胞における変異、欠失、増幅、過メチル化等のゲノム異常や遺伝子の発現動態を解析する。 また、ToMMoより提供されるゲノムデータを用い、Germline由来のSNPs、SVsの除去を行うことで、体細胞突然変異、あるいは構造異常の検出精度をあげる。</p>					
利用試料・情報	<p>対象:東北大学メディカルメガバンクのコホート参加者全員 試料:なし 情報:基本情報、全ゲノム情報</p>					
期待される成果	<p>肺がんの発生・進展の分子機構や特性の全ぼうを明らかにし、新たな予防・診療法の開発に資する情報を得られることが期待される。</p>					
倫理審査等の経過	2023年12月22日 東京大学倫理審査専門委員会					
倫理面、セキュリティー面の配慮	<p>分譲された情報は、ToMMoのセキュリティー・ポリシーに沿って、研究に関わる者以外のアクセスができない環境に保存したうえで解析する。</p>					
その他特記事項						
(事務局使用欄)	*公開日 2024年8月9日					